

大茅地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日 時 平成23年11月7日(月) 19:00～20:50
- 2 会 場 大茅地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 19名
市側出席者 18名
竹内市長、深澤副市長、中川教育長、羽場総務部長、堀防災調整監、亀屋庁舎整備局長、大塚農林水産部長、谷口都市整備部次長、中村中山間地域振興課長、西尾中山間地域振興課課長補佐、尾室秘書課長
＜国府町総合支所＞秋田支所長(司会)、安本副支所長、山本市民福祉課長、谷岡産業建設課長、川口地域振興課主幹
＜事務局＞高橋協働推進課課長補佐、近藤協働推進課主事

6 地域の課題についての市長等との意見交換

1 雨滝・十王峠の「鳥取県・鳥取市の共有地」の活用について

＜地域課題＞

県・市・産・学・地元などによる『活用策の検討会』を立ち上げていただきたい。

＜担当部局の所見等＞

【企画推進部・農林水産部】

本地域は広大な森林を有し、水源涵養のほか環境保全等重要な役割を果たしている地域であると認識しております。このような地域の利活用については、「大茅地区協議会」など、地元住民自らがどのように活用していくことが好ましいのか、しっかり議論を重ねられ、地域としての活用プランを作成される必要があると考えます。

例えば、本市佐治町また河原町、鹿野町などにおいては地域の自然を中山間地域の宝として活用(自然塾、マイナスイオンツアーなど)され、グリーンツーリズムの推進を図って地域の活性化につなげている地域もあります。

行政は地域の皆様の主体的な取り組みを尊重しながら、地域住民主導の取り組みを、国府町総合支所をはじめ関係各課で連携を図り、アドバイスし、支援し、協働で推進していくことがその役割であると考えます。このため、現在のところ、本市が主導して「活用策の検討会」を立ち上げることは考えていません。

まず、地域でチームとか利活用協議会を立ち上げて議論し、活用案の作成のため、総合支所・関係課で一緒になって考えたいと思います。

その上で、中山間地域振興課が所管する「輝く中山間地域創出・支援モデル事業」を活用していただくことも可能です。

地域の皆様の主体的取り組みを尊重しながら、協働で取り組んで参りたいと考えていますので、今後、地域の自然環境の保全も含めて、地元と協議させていただきます。

(中山間地域振興課長)

平成21年度の地域づくり懇談会に続く議題です。十王峠の県・市共有地の活用につき、県・市・産・学・地元などによる活用策の検討会を立ち上げていただきたいとのことです。画面は共有地の位置図と現在の現況写真です。ここは広大な森林を有しており、水源涵養の他、環境保全等重要な役割を果たしている地域であると認識しています。このような山林の利活用について

は、近隣集落のみならず、例えば、本日お集まりの大茅地区全体で今後どのようにしていけばいいかしっかりと議論を重ねられ、地域としての活用プランを作成されることがまず必要と考えます。その上で、行政としては地域の皆さまの主体的な取り組みを尊重しながら、地域住民の皆さま主導の取り組みをアドバイスし、支援して協働で推進していくことこそ役割であると考えています。したがって、現在のところ、鳥取市が主導してご指摘の産・官・学・地元などによる活用策検討委員会を立ち上げることは考えていません。国府町地域においては、まちづくり協議会や自治会の役員さん方はもとより、全集落の区長さんを対象に中山間地域対策強化方針の説明会を開催しました。



(地元意見)

雨滝と十王峠の山の状態について、皆さん方は面積など図面上で判断しており、本当に足を使って現地を確認した上で現地の状況を知っている方が、皆さんの中におられるのかなと思います。ここには大きな木があるとか岩があるなどは、ただ図面ばかり見ても現場を見ないことには想像もつかないのではないのでしょうか。皆さんの中に現地を見た人がおられますか。この大滝と100町歩の山、それと28町歩の十王峠の方を見られましたか。大滝の山の方は100町歩ありますけども、その現地を見たことがありますか。僕は国府町のときに町会議員と現地の境を歩きました。素晴らしいところもあります。だからいろんな構想をしてほしいので、ああしたらいい、こうしたらいいと投げかけています。やはり、みなさん方をプロだと思っていますので、現場を見て我々に提供するアイデアを投げかけてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

(国府町総合支所長)

12万㎡と書いてありますが、実際は28.3万㎡ということです。100町歩というのはまた別のところで、今回は挙がっていません。我々も十王峠の方のみで、全部見ていないので誠に申し訳ありませんが、現地に我々も行って、中に入って道の状況、木の状況は見させていただきました。大変荒れているという状況です。

(中山間地域振興課長)

先ほど、支所長からも、また説明の際にも申し上げました。例えば、協働のまちづくりの取り組みについての報告で発表された雨滝、川床料理等につきましても一部、市から提案もさせていただいた経緯もあります。先ほどの説明の中で申し上げましたように、例えば、他地域においては、森林を利用したマイナスイオンツアーや森林浴などの例題をお示しさせていただいています。そういった意味で、今日議題とさせていただいている「鳥取市が産・官・学の検討会を立ち上げなさい」というご質問について、回答でお示しさせていただきましたように、市が主導を握って検討会を立ち上げる予定は現在のところございません。ただし、地域の皆さまからこの会合に出てほしいとか、こんなことがしたいという提案がありましたら、総合支所を初め、市役所担当課が出ることはやぶさかではありません。そういった意味で、鳥取市からあれをきなさい、これをきなさいと提案をするというよりは、むしろ協働の取り組みという意味から地域の皆さまの意見を尊重したいということを申し上げました。

大茅地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日 時 平成27年10月9日（金） 19:00～20:15
- 2 会 場 大茅地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 15名
市側出席者 16名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、久野地域振興監、綱田都市整備部次長、高橋秘書課長
＜国府町総合支所＞安本支所長、山本副支所長（司会）、加藤市民福祉課長、前田産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

（中核市推進監）※チラシに基づき説明

5 人口ビジョン・創生総合戦略（概要）についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 道路の整備について

＜地域課題＞

国府地域への観光客誘致のため、

①主要地方道岩美八東線（県道37号線）の整備

ア）岩美町小田～大坂間の改良（勾配、曲線半径の改良）：大型観光バスが運行できるよう要望してほしい。

本線は、緊急輸送道路ネットワーク計画で第2次緊急輸送道路となっている。

イ）国道9号線岩美町新井に「雨滝・殿ダム方面」の看板や観光案内板を設置してほしい。

②主要地方道鳥取国府岩美線の整備

ウ）十王峠附近の早期整備を引き続き要望してほしい。

エ）国道9号線岩美町塩谷ならびに県道院内馬場線との交差部に「大型車通行不可」の看板設置を要望してほしい。

③市道雨滝1号線の改良と雨滝駐車場整備

・事業を推進し、早期に完了していただきたい。

＜担当部局の所見等＞

①主要地方道岩美八東線（県道37号線）の整備

【都市整備部】

ア) 岩美町小田～大坂間の改良について

道路管理者である鳥取県に確認したところ下記のとおり回答がありました。

（鳥取県回答）

現地は2車線改良済であります、バスが旋回するのに必要な局所的な改良については、道路の利用状況をみながら、現地を確認の上、必要に応じて検討します。

イ) 国道9号岩美町新井への案内標識の設置

「雨滝・殿ダム方面」の案内標識の設置については、以前から鳥取市内への案内標識設置についてご要望いただいております、現在、国道および殿ダム管理者である国土交通省ならびに鳥取県と本市において案内標識設置箇所等の検討・協議を行っているところです。

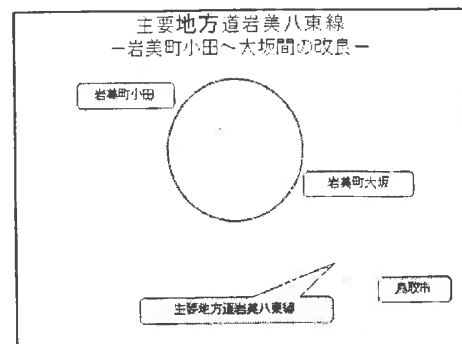
引き続き、案内標識の設置に向けて、関係機関と協議を行ってまいります。

（都市整備部次長）

岩美町小田から大坂の間は、落差もあり、ヘアピンカーブが4、5か所連続しています。

鳥取県に要望をお伝えしたところ、この道路は2車線道路に改良整備済みのため、ヘアピンカーブ等の局所的な改良については、今後、大型バス等の利用状況等を見ながら、必要に応じて検討していきたいとのことでした。

なお、殿ダムの整備を契機に、現在、「殿ダム周辺の水源地域ビジョン」として殿ダム周辺の環境整備を行っていますが、その委員会の中で、地元の委員さんからは看板の必要性について以前からご要望いただいております。それからすでに2年ほど経過していると思いますが、県の道路標識適正化委員会にのせていこうということで、現在、殿ダムの管理者等と連携を図りながら、国、県、市で継続して協議を進めている状況です。具体的には、国道9号線の兵庫方面から鳥取方面の道路標識の中に、「国府方面」、もしくは「雨滝方面」といった表示ができないか検討しているところです。



<担当部局の所見等>

【経済観光部】

イ) 国道9号岩美町新井への観光案内板の設置

観光案内板の設置については、鳥取県東部・兵庫県北部との広域観光の取り組みをより一層進めているところであり、例えば道の駅きなんせ岩美での雨滝方面のルート案内を含む観光情報発信なども含めて、県東部1市4町で構成する「鳥取・因幡観光ネットワーク協議会」で検討したいと考えます。

(都市整備部次長)

現在鳥取市は、鳥取県東部や兵庫県北部の香美町、新温泉町などと一緒に、広域観光の取り組みを進めています。例えば、道の駅きなんせ岩美は岩美町が設置された駅ですが、こういった所への案内看板等の設置について、県東部1市4町で構成する「鳥取・因幡観光ネットワーク協議会」の中で取り上げ、設置する方向で前向きに検討していきたいと考えます。

(地元意見)

先日、道の駅きなんせ岩美に初めて行きました。道の駅に大きな看板があります。しかし、看板には岩美町のことしか書いてありません。県道37号線や岩美町小田に抜ける道、木原から雨滝に抜ける道など、雨滝までの道は描いてあるが、「県道37号線」という表示も「国府町雨滝」という表示もありません。岩美町と協議して、「県道37号線」や「雨滝」の地名等を入れてもらえたらありがたいです。

(深澤市長)

『地方創生』ということで、今後はさまざまな分野の人と周辺の自治体同士が一緒になって地域づくりをしていく時代です。実際に、地方創生の取り組みとしてまずは観光ネットワークに取り組もうと、鳥取市と周辺4町、兵庫県北但馬の香美町、新温泉町が一緒になって、鳥取・因幡観光ネットワーク協議会ということで、折々に集まって話をしているところです。

具体的に岩美町にお願いしなければならない事柄もあると思いますが、ネットワーク協議会等の場でも十分に検討させていただきたいと思います。

観光商品の造成やネットワークについてなど、今こそ複数の地方自治体が力を合わせて進めていく時期にありますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

②主要地方道鳥取国府岩美線の整備

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

ア) 十王峠付近の整備について

道路管理者である鳥取県に現在の進捗状況を確認したところ、岩美町側の1期工事については現在整備を進めており、平成27年度完成予定とのことでした。

また、国府町側の2期工事については、平成27年度に測量設計および用地買収を実施予定であり、平成28年度に工事着手する予定とのことで、平成30年代半ばの完成を目指していきたいとのことでした。早期完成に向けて地元の皆様においては、用地買収のご協力をお願いします。

本市としても、事業の早期完成に向けて従来から県に対し要望を行っており、引き続き要望を行ってまいります。

イ) 岩美町塩谷地内ならびに岩美町白地地内の国道9号と県道との交差部への「大型車

通行不可」の看板設置について

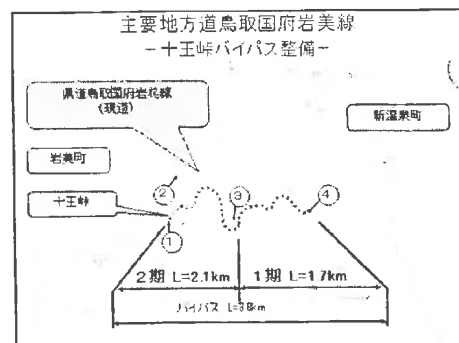
県道管理者である鳥取県に確認したところ、岩美町塩谷地内の国道9号と主要地方道鳥取国府岩美線の交差部は主要地方道であり、兵庫方面から国府町への近道としてカーナビゲーションシステムを頼りに進入する可能性も考えられること、また、十王峠区間においては実際に大型車の通行が不能であることから、看板設置を検討したいとのことでした。

また、岩美町白地地内の国道9号と県道院内馬場線の交差点については、県道院内馬場線は、道に不慣れな大型車が進入することはほとんど無いと考えられること、またダンプ程度的大型車であれば通行可能なことから、現時点で看板設置までは考えていないとのことでした。

本市としましては、山陰近畿自動車道の整備が進んでいく中で、今後兵庫方面からの通行量も増加すると考えられ、国府地域への周遊ルートの確保は重要と考えており、引き続き鳥取県に対し要望を行ってまいります。

(都市整備部次長)

主要地方道鳥取国府岩美線の十王峠付近は、岩美八東線にも増して曲がりくねっており、幅員も狭くて大型車が通れるような道路ではないということで、鳥取県がバイパス整備に取り組んでおられます。岩美町側の1期工事は平成27年度の完成予定で、国府町側の2期工事は平成27年度に測量設計に着手し用地買収等を行って、平成28年度には工事着手する予定とのことでした。



岩美町塩谷地内と岩美町白地地内の、国道9号線と県道との交差点については、国道9号線を兵庫県側から鳥取方面に向かう際にカーナビゲーションシステムを頼りに来られて、狭くて通れないような道に進入してしまい、かなり奥まで進んでから引き返すといったことが、時々発生しているようです。道路管理者である鳥取県によると、鳥取国府岩美線は一般国道よりも格の大きな主要地方道であり、車がカーナビゲーションシステム等の案内で進入する可能性も想定されること、また、十王峠区間は実際に大型車が通行できないことから、看板の設置を検討していきたいと回答をいただいています。ただし、県道院内馬場線については、一般の車両が積極的にこの道に向かってくる可能性は低いいため、整備についてはもう少し様子を見たいとのことでした。

③市道雨滝1号線の改良と雨滝駐車場整備

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

市道雨滝1号線では、工事施工時においても観光バス等の通行を確保できる区間から順次整備を行ってきました。しかし、今後整備を行う区間では、工事の際の交通確保が困難な箇所が多く、事業の進捗を図るためには全面通行止めを伴う交通規制が必要となりますので、地元等のご理解とご協力をお願いします。

【経済観光部】

雨滝駐車場の段差解消と全面舗装化につきましては、道路整備事業とあわせて検討してまいります。

（都市整備部次長）

市道雨滝1号線の雨滝までの区間の全体の延長は、約1.7kmです。平成27年11月には100mの区間について工事発注を予定しており、これが完了すれば延長の約7割の工事が完了します。

この市道は雨滝までの唯一のルートであるため、観光の最盛期である6月から10月にかけては、車のすれ違いが難しく通行止め等も難しいということで、通常の工事の際にも観光シーズンが終わった11月頃に工事を行っています。そのため、これまでは、多少広い道や迂回路が確保できる所から年次的、優先的に整備を進めてきました。

平成27年度の施工区間も、ほぼ、現在の道路等を利用しながらの工事が可能だと考えていますが、来年度以降の3区間、延長約540mについては、現在の道路を通行していただきながら工事することが難しくなる見通しです。

また、これまでは観光シーズンを避けて工事を施工するよう頑張ってきましたが、来年度以降は、多少なりとも観光シーズン中の工事も行わざるを得ないと考えています。その場合は、地元の皆様や観光事業関係者の皆さんとあらかじめ協議させていただき、工期や工法を検討して進めていきたいと思っております。

また、以前、駐車場が真砂土のために、雨で表面が流れるというご意見をいただいておりますので、平成28年度以降の道路整備に併せて検討したいと考えています。



（深澤市長）

道路整備については、なかなか進展しないところもありますが、我々も、できる限り整備を進めていきたいという思いです。冬場を避けて観光シーズンに工事しなければならないことが、工事がなかなか進まないネックになっているような状況もありますが、今後とも工夫しながら進めていきたいと思っております。

（地元意見）

何年にもわたり、同じ回答が続いています。雨滝集落がせっかく頑張って、「瀧の傘」という販売所兼休憩所をつくられたのに、駐車場があつた状態です。

十王峠についても、県も過去には、平成30年度か31年度には完成すると言っていました。しかし、これから詳細設計をして工事発注では、私が生きているうちには通れませぬね、と先日県の局長にも伝えました。

兵庫方面から来られる観光客や、鳥取から来て岩美方面に抜ける観光客を少しでも確保したいということで、観光客に来てもらえる方策を皆で考えようと今日の地域課題に挙げています。来てはみたがあの道路はなんだと、来られた観光客が不便を感じないようにしてほしいという気持ちです。

（都市整備部次長）

この岩美道路や道路のネットワークの整備も鋭意進んでいます。兵庫方面からの誘客も今後ますます増加するだろうということで、この地域への周遊ルートが重要だと考えています。そういった趣旨も踏まえ、今後も鳥取県に対して継続して要望したいと思っております。

鳥取県への移住状況について（平成26年度末現在）

平成27年6月24日
とっとり暮らし支援課

平成26年度の本県への移住者数がまとまり、年間1,246人となりました。この結果、平成23年度から平成26年度までの4年間の移住者数は3,418人となり、平成26年度までの目標2,000人（マニフェスト）を大きく上回りました。

1 移住者数の調査結果

（1）移住者数の推移

年度	移住者数	累計	目標
平成23年度	504人	504人	2,000人
平成24年度	706人	1,210人	
平成25年度	962人	2,172人	
平成26年度	1,246人	<u>3,418人</u>	

（2）平成26年度移住状況（世帯主の状況）

<年代別>

- ・年代別にみると、20～30代が多い。

<理由別>

- ・理由別にみると、20～40代は、就職が中心。結婚・子育ても目立つ。
50代以上は、退職等による帰郷、田舎暮らし志向が中心。

<U I ターン別>

- ・U I ターン別にみると、それぞれ伸びているが、Uターンの伸びが目立つ。

<地域別>

- ・移住元の地域別にみると、中国地方、関東地方、近畿地方からの移住者数の伸びが目立つ。
・移住先の地域別にみると、鳥取市、倉吉市、琴浦町、伯耆町への移住が目立つ。

（3）移住者数が増加した理由

東日本大震災以降の安全志向や県及び市町村による施策の充実に加え、県内企業の求人の増加による効果もみられるようになったと考えられる。

2 今後の取組

人口減少・高齢化が進む地域の状況や都市部の企業の採用増の動きを踏まえ、特に地域の将来の担い手となる若い世代を中心に、首都圏をはじめ全国に取組を展開し、鳥取県への移住をより強く働きかける。

【参考】平成26年度移住状況

○移住者数・世帯数 1, 246人・823世帯

○年代別 移住世帯数

・20～30代の移住者が多い。

20代以下：353世帯（42.9%）

30代：190世帯（23.1%）

40代：94世帯（11.4%）

50代：47世帯（5.7%）

60代：72世帯（8.7%）

70代以上：45世帯（5.5%）

計：801世帯 ※年代が不明な者（22世帯）を除く。

○年代別・理由別 移住世帯数

・20～40代は、就職が中心。結婚・子育ても目立つ。

・50代以上は、退職等による帰郷、田舎暮らし志向が中心。

（単位：世帯）

	～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		合 計	
	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比
農林水産業	15	5.0%	14	9.1%	7	9.6%	0	0.0%	1	1.7%	1	3.4%	38	5.8%
田舎暮らし志向	6	2.0%	20	13.0%	13	17.8%	5	13.9%	16	26.7%	4	13.8%	64	9.8%
企業等への就職	177	59.4%	61	39.6%	26	35.6%	8	22.2%	6	10.0%	6	20.7%	284	43.7%
起業	5	1.7%	12	7.8%	4	5.5%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	22	3.4%
結婚・子育て	24	8.1%	25	16.2%	7	9.6%	4	11.1%	1	1.7%	2	6.9%	63	9.7%
介護	0	0.0%	1	0.6%	5	6.8%	4	11.1%	5	8.3%	3	10.3%	18	2.8%
退職・卒業等による帰郷	68	22.8%	16	10.4%	9	12.3%	14	38.9%	25	41.7%	10	34.5%	142	21.8%
その他	3	1.0%	5	3.2%	2	2.7%	1	2.8%	5	8.3%	3	10.3%	19	2.9%
計	298	100.0%	154	100.0%	73	100.0%	36	100.0%	60	100.0%	29	100.0%	650	100.0%

※年代又は理由が不明な者(173世帯)を除く。

○Uターン別 移住世帯数

・それぞれ伸びているが、Uターンの伸びが目立つ。

Uターン：478世帯（前年度：354世帯）

Iターン：325世帯（前年度：266世帯）

計：803世帯 ※区分不明な者（20世帯）を除く。

○前居住地別 移住世帯数・人数

・中国地方、関東地方、近畿地方からの移住者数の伸びが目立つ。

（単位：世帯、人）

移住前	世帯数				人数			
	H26年度	H25年度	増減	前年比	H26年度	H25年度	増減	前年比
北海道・東北	13	17	-4	76.5%	18	33	-15	54.5%
関東	154	105	49	146.7%	238	155	83	153.5%
中部	62	42	20	147.6%	77	60	17	128.3%
近畿	300	252	48	119.0%	451	394	57	114.5%
中国	211	140	71	150.7%	345	217	128	159.0%
四国	20	15	5	133.3%	26	22	4	118.2%
九州・沖縄	33	30	3	110.0%	56	41	15	136.6%
国外	11	20	-9	55.0%	16	37	-21	43.2%
計	804	621	183	129.5%	1227	959	268	127.9%

※前居住地が不明な者（H26:19世帯(19人)、H25:2世帯(3人)）を除く。

○市町村別 移住者数

・鳥取市、倉吉市、琴浦町、伯耆町への移住が目立つ。

（単位：人）

市町村名	移住者数	市町村名	移住者数	市町村名	移住者数	市町村名	移住者数
鳥取市	399(1,174)	若桜町	12(39)	琴浦町	137(200)	伯耆町	116(295)
米子市	54(148)	智頭町	32(151)	北栄町	27(192)	日南町	44(146)
倉吉市	147(284)	八頭町	20(52)	日吉津村	3(9)	日野町	32(80)
境港市	8(75)	三朝町	21(90)	大山町	16(123)	江府町	7(40)
岩美町	38(116)	湯梨浜町	66(83)	南部町	67(121)	合計	1,246(3,418)

※（ ）内は平成23年度から4年間の累計

○行政支援の活用状況

・相談窓口の活用が目立ち、起業・就農支援制度、住宅支援制度がこれに続く。

回答のあったもの（300世帯）のうち主なものは次のとおり（複数回答あり）。

・相談窓口（286世帯）

・起業・就農支援制度（54世帯）

・住宅支援制度（36世帯）

第19回 因幡傘踊りの祭典

19th the Festival of Kasaodori



場所 因幡万葉歴史館「伝承館」

雨天の場合 国府町コミュニティセンター多目的ホール

演技終了後、
打上げ
花火有り

傘踊り
体験
コーナー

出店
コーナー
有り

平成28年
8月20日
午後5時～午後8時
入場無料

路線バス 鳥取駅バスターミナル 3番のりば
・日ノ丸中河原線に乗り→「因幡万葉歴史館入口」停留所下車 徒歩5分
・因幡万葉歴史館線に乗り→「因幡万葉歴史館」停留所下車

鳥取駅	因幡万葉歴史館入口	因幡万葉歴史館入口	鳥取駅
14:45 市	15:11 市	19:05 市	19:20 市
15:44 市	16:10 市		
16:05 市	16:31 市		
17:20 市	17:46 市		

市・市内各所 環境保護のため、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

お問い合わせ先 因幡万葉歴史館 ☎ (0857) 26-1780

【主催】鳥取市 【共催】国府町因幡の傘踊り保存会、公益財団法人鳥取市文化財団 因幡万葉歴史館
【後援】鳥取県、鳥取県教育委員会、鳥取県観光連盟、鳥取市観光コンベンション協会、朝日新聞鳥取総局、産経新聞鳥取支局、山陰中央新報鳥取総局、新日本新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BS S山陰放送、T S K山陰中央テレビ、日本海テレビ、いなほびんぼんネット、日本海ケーブルネットワーク



車両通行止め
市道庁6号線
(17時～21時)
万葉の館前から
国府町コミュニティセンター側まで

270

日本海側国土軸の形成を目指して!!

山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線 京都府北部ルート of 決定を求める決起大会

と き 平成 28 年 7 月 30 日 (土) 午後 2 時～午後 4 時

ところ とりぎん文化会館 梨花ホール (鳥取市尚徳町 101-5)

来賓

●山陰新幹線を実現する国会議員の会

会長 石破茂地方創生担当大臣

●北陸新幹線京都府北部ルート誘致促進同盟会

会長 多々見舞鶴市長 ほか



講演

【演題】「山陰新幹線」の意義と実現プロセス (仮題)

【講師】京都大学大学院工学研究科教授／内閣官房参与

ふじ い さとし
藤井 聡 氏

◆1968 年生まれ

京都大学工学部土木工学科卒業

京都大学大学院工学研究科教授

京都大学レジリエンス研究ユニット長

内閣官房参与

著書は『「スーパー新幹線」が日本を救う』 など



【演題】新時代的高速鉄道ネットワーク

～山陰新幹線の実現戦略～ (仮題)

【講師】大阪産業大学工学部教授

はとこ まさとし
波床 正敏 氏

◆1968 年生まれ

京都大学工学部交通土木工学科卒業

大阪産業大学工学部教授

著書は、『整備新幹線評価論－先入観にとらわれずに科学的に評価しよう』 など



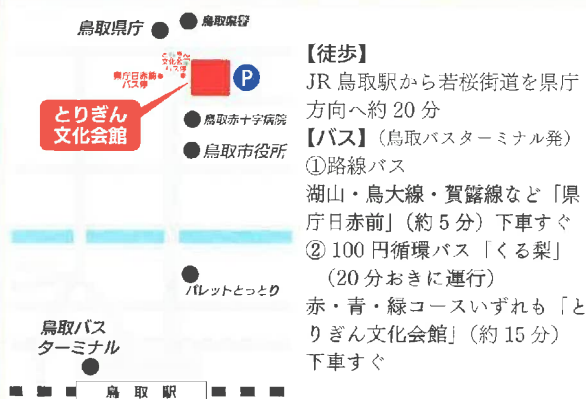
大会趣旨 山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議

「山陰新幹線」は国が定めた基本計画にも関わらず、40 年以上進展していません。この間、太平洋側を中心に、他地域の新幹線整備は進められて来ました。この結果、山陰地方を含めた日本海側と太平洋側に大きな地域格差が生じています。

北陸新幹線敦賀以西ルートの選定が進む中、今、にわかに山陰新幹線が現実味を帯びて来ました。この機会に山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部ルートの決定を求めるため、決起大会を開催しますので、ぜひみなさんでご参加ください。



会場へのアクセス ※公共交通機関をご利用ください



※とりぎん文化会館の駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。

※託児サービスも行っています。希望される方は、7 月 25 日(月)までに鳥取市交通政策課 ☎ 0857-20-3257) へお申し込みください。

主催 山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議

お問い合わせ

開催地担当課
事務局

鳥取市交通政策課 〒 680-8571 鳥取県鳥取市尚徳町 116

京丹後市企画政策課 〒 627-8567 京都府京丹後市峰山町杉谷 889

☎ 0857-20-3257

☎ 0772-69-0120

山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線 京都府北部ルートへの決定に向けた取り組み

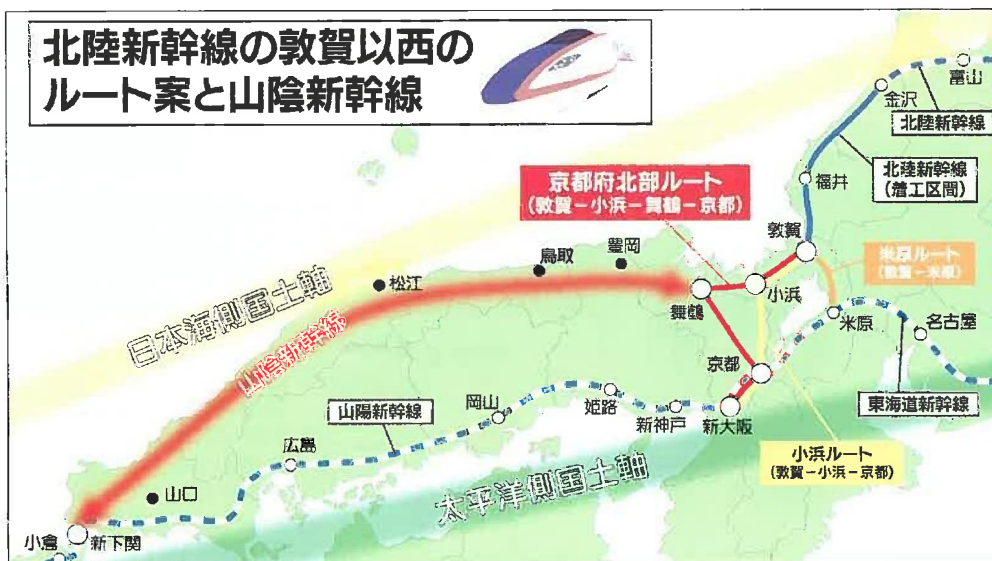
1 山陰新幹線の現状と必要性

山陰新幹線は、大阪市から山陰地方を経由して下関市に至る新幹線基本計画路線ですが、昭和48年に閣議決定されてから、40年以上たった今でも計画が進展していません。

一方、太平洋側を中心に新幹線整備は進み、山陰地方を含む日本海側との地域格差が広がっています。このような現状を打開するため、2府5県の49市町村で構成する私たち「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」は、山陰新幹線の実現による「日本海側国土軸」の形成により、太平洋側に大規模災害などが発生した場合のバックアップ機能の確保、また、地域経済の活性化による地域間格差の解消など、将来の日本の発展に寄与するものと考え、山陰新幹線の早期実現に向け、調査研究や要望活動を行っています。

2 北陸新幹線敦賀以西延伸ルートについて

昨年3月に「長野ー金沢間」が延伸開業した北陸新幹線の敦賀以西ルートについて、現在、与党検討委員会で京都府北部を経由する「京都府北部ルート」など3ルートを比較検討されており、年内にも最終決定したい意向を示されています。今年3月には京都府北部の7市町の行政、議会、商工観光組織により「北陸新幹線京都府北部ルート誘致促進同盟会」が結成され、強力に要望活動が行われています。



京都府北部ルート選定

山陰新幹線の実
現に大きく近づ
きます！

このため、今、
決起大会を開催
するものです！

3 北陸新幹線京都府北部ルートの決定と山陰新幹線の早期実現に向けて

北陸新幹線「京都府北部ルート」の決定は、山陰と北陸、京阪神がつながる上で、最も効率的かつ合理的なルートです。

私たち山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議は、北陸新幹線の延伸ルート検討が佳境を迎えている今、「北陸新幹線京都府北部ルート誘致促進同盟会」や石破地方創生担当大臣を会長として、京都、兵庫、鳥取、島根、山口の地元選出国會議員19名により設立された「山陰新幹線を実現する国會議員の会」と連携を密にし、北陸新幹線京都府北部ルートの速やかな実現と、それにより促進される山陰新幹線の早期実現、地域活性化に必要な在来線の充実に全力で取り組んでいます。

7月30日(土)には、山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部ルートの決定を目指し、鳥取市で決起大会を開催します。ぜひ、みなさんのご参加をお待ちしております。